



大分市など4ヵ所で月1回の「病院」

おもちゃ治療1万個

大分合同新聞
2024年
2月15日(木)
朝刊 11面

開院13年 医師も依頼者も「笑顔」

【大分】壊れたおもちゃを無償で修理する大分市のボランティア団体「大分おもちゃ病院」(寺司健一会長)の受け付けが11日、1万個を突破した。2013年の開設以来、おもちゃドクターは「子どもたちに、物を大切にすることを育んでほしい」と願い、「治療」に当たっている。



①1万個目のおもちゃ修理を依頼した佐藤巨桔ちゃんに感謝状を贈った寺司健一会長(左端)ら。預かったおもちゃを修理するドクターたち=大分市今津留のOBS本社ロビー

この日は同市今津留のOBS本社ロビーで開院。子どもはもちろん大人も、愛着あるぬいぐるみや野球盤、クレーンゲームなどを運び込んだ。



1万個目は同市下郡の佐藤巨桔ちゃん(3)の電動乗用玩具で、電源を入れても動かなくなっていた。寺司会長(左)は「同市上春日町」から記念の感謝状を受け取った巨桔ちゃんは「おもちゃを元気にしてください」。「入院」し修理を待つことになった。

日本おもちゃ病院協会(東京都)が同市で開いたドクター養成講座の受講生で13年4月に立ち上げた。現在は同市のOBSとトキ

ハわざだタウン、豊後大野市三重町のエイトピアおおの、別府市のトキハ別府店の4ヵ所で月1回ずつの開院を続ける。

メンバーは10〜80代の46人。元技術者が多く、現役内科医や消防士、主婦らが得意分野を生かして作業を分担する。

電子回路の修理を担う塩月皓貴さん(16)は「大分豊府高1年」は「好きなことで誰かの役に立てるのがうれしい」。相談役の岩崎直之さん(85)は「大分市猪野」も「ボランティアというより楽しいから続いているんですよ」と目を細める。

預かったおもちゃの約9割は復活。寺司会長は「子どもたちの笑顔がやりがい。直せないときは本当につらい」。ドクターを養成し、県内全域に病院をつくる夢を思い描いている。

共に活動してくれる人も募集している。技術の有無は問わない。問い合わせは寺司会長(090・7459・0915)。(藤沢香)



大分合同新聞
2024年
2月15日(木)
朝刊 11面

〔問①〕 写真に写っている人たちが治しているものは何ですか

〔問②〕 この人たちの「やりがい」は何ですか？

〔問③〕 あなたが大切にしているもので、壊れたり破れたりしているもので、治したいものは何ですか。